令和５年度　９月号　令和５年８月３１日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校　長　佐伯　孝司

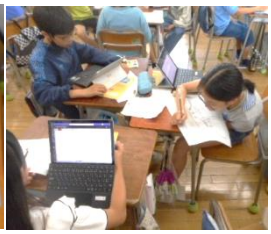
https://shibuya.schoolweb.ne.jp/ueharae

児童が自らの変容に気付き「学びがい」を感じる学習活動づくり　　校長　佐伯　孝司

廊下を歩いていると、子供たちの力強い声が飛び交っています。さらに近付くと、真剣な表情で子供たちがよく動いているのが分かりました。また、その力強い声は、「もっとこうした方が」「記録にとって」「もう一回いくよ」などと掛け合っている声だと分かりました。送風機でいろいろな強さの風を送ったり、紙の帆を広げた車が傾斜を登った距離を記録したり、その様子を動画で撮影したり。一人では困難ですが、グループで協力すれば様々な工夫ができ、データも取れる活動です。教室内を見てみると、友達のデータも参考にしながら、考察をしている子供たちもいました。その後、取得したデータや画像等を用いて、風の強さと物の動きの関係をまとめている様子が見られました。「何を書いているのですか」と尋ねてみると、子供たちは得意気に、的確に答えてくれました。それでもまだ納得できるデータが取れなかったのか、粘り強く実験を繰り返す様子も見られました。

これは、３年生の理科「風のはたらき」の学習で、風の力は、物を動かすことができること、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることを学んでいます。知識としては、子供たちの生活経験からも導くことができる内容でしょう。その知識を得る過程において、自ら課題解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、友達の意見を聞いて改めて考えたりしながら進めていく学習活動を設定することが大切です。様々なものの見方・考え方を働かせたり、他者と協働して尊重し合ったり、言葉によって整理し伝え合ったりすることなども学んでいます。このような学びの体験が、子供たちの成長を促していきます。

左の画像は、同じ理科の学習です。生き物についての知識を広げようとタブレットを使って調べています。昆虫の体のつくりについて共通した知識を得ることになりますが、一人一人、興味をもつ昆虫、アップにして見てみたい画像は違います。同じ知識を得るにも、より自分に合ったアプローチができれば、より楽しく学ぶことができることでしょう。



もちろん、他学年、他教科等でも同様に、様々な学習活動の工夫に取り組んでいます。１年生の算数では、「どちらがどれだけ多いか」ということを図や言葉に表して、友達と学び合いながら、式を立てていました。５年生の国語では、思考ツールを使って、自分の考えをもって話合いを深められるように、協働的に学び合うための工夫をしている様子が見られました。

ここに挙げきれませんが、子供たちにとって、これからの毎日の学校生活が楽しく充実したものになるよう、日常の授業づくりのために本校教員も学び合っています。児童が、自らの変容に気付き、「学びがい」を感じる学校づくりに努めてまいります。